

富津埋立記念館

FUTTSU MEMORIAL MUSEUM OF THE LAND RECLAMATION

富津岬には
東京湾に突き出た長い砂州を持ち
江戸の守護として江戸時代より
砲台が置かれていました。
本記念館の受付ホールの上部は
この砲台をモチーフに
『砲台平成風』で設計されています



施設のご案内

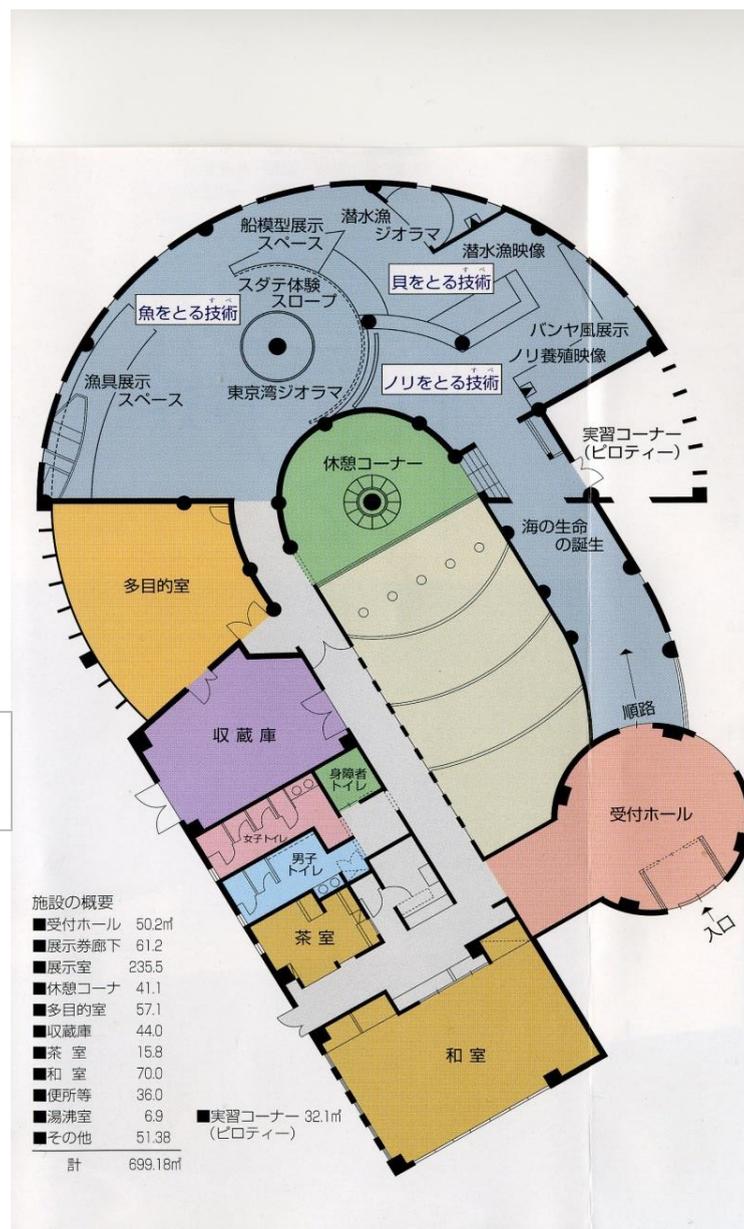
遠浅で豊かな海をもつ富津は好漁場として栄え魚類・貝類・のりなどが数多く水揚げされ江戸前の食の文化を支えてまいりました。

しかし、社会経済範囲の広がりにより富津沖は埋立が進み海はその姿を変えてきました。漁に使用した船や器具の展示をとうして、かつての海の姿を偲び、郷土の歴史や産業の様子を若い世代に伝える施設です

展示のご案内

祖先や今まで漁業に従事していた友の働く姿や、使ってきた漁労器具などを模型・ジオラマ・写真によって紹介しています。

展示室の他にも多目的室・和室を学習等に利用できます



のりをとる技術

江戸の海苔問屋、近江屋甚兵衛によって小糸川周辺にのり養殖が伝えられそこから広く房総にのり養殖が伝わり行われるようになりました。幾多の困難や失敗を乗り越え広まっていったのり養殖でしたが、現在のような安定した高い収穫を得られるようになり、のり養殖がしっかりと根づくには、富津の人、平野武治郎の登場を待たなければなりませんでした。

貝をとる技術

富津の漁の長い歴史を支えてきた大きな柱に貝採取漁があります。昭和初期ごろからのバカ貝の大豊漁、ろくろと呼ばれる巻き取り機で網を巻き取り、バカ貝を大量にとり、街を潤しました。明治十三年から始まった潜水漁は、平貝・ミル貝・トリ貝・バカ貝・アサリなど、潜水器を使って海に潜って採ってくるという特殊な方法で街を支えてきたのです。

魚をとる技術

豊かな海の幸を育んできた東京湾、その豊かな海を目の前にした富津は多くの名漁師を育て、富津の漁業は日本全国にその名を轟かせました。富津の漁業が有名だったのは、海の豊かさのためばかりではありませんでした。このあたりの海は海流や海底の地形などの変化が多いのでそこに住む魚や貝の種類もさまざまです。多種多様な海の幸をより効率よく得るため、富津の漁師は様々な漁法を開発、あるいは取り入れ、海の幸を追い求めて海へ向かったのです。

利用のご案内

入館料 無料

富津埋立記念館
千葉県富津市新井932-3
☎0439-87-8381(富津公民館)
開館時間 A. M9:00~P. M5:00

